

第7期第9回（令和6年度第2回）多治見市子どもの権利委員会 議 事 要 旨

I. 開催日時：令和6年7月26日（金） 15時00分 ～ 16時30分

II. 場所：多治見市役所駅北庁舎 4階災害対策本部室

III. 出席者（敬称略）

＜出席委員＞ 加納誠司、野尻紀恵、水野重信、水野知久、浅井陽子、寺島和希、加知玲子、池之上浩

＜欠席委員＞ 清水直美

＜事務局＞ 環境文化部長：伊藤徳朗　くらし人権課長：勝見祐子
くらし人権課：今井光春、玉野いづみ

IV. 内容

はじめに

- ・視察（外国籍の子どもの夏休みの宿題支援学習会）
- ・環境文化部長あいさつ

【議題】

1. 子どもの権利委員会視察先について【資料1、関連資料】
2. 第4次子どもの権利に関する推進計画体系図（案）について【資料2-①、2-②】
3. その他

【資料】

◎資料1：子どもの権利委員会視察先について

◎資料2-①、2-②：第4次子どもの権利に関する推進計画体系図（案）

◎関連資料：さわらび学級チラシ

◎第2回委員会についての意見シート

◎その他：「みんな違っておもしろい　ぼくの絵わたしの絵　絵画コンクール」チラシ、令和6年度人権同和教育講演会チラシ

○ 4階大ホールにて外国籍の子どもの夏休みの宿題支援学習会視察（教育推進課主催）

○ 会議及び議事録の公開、会議の録音について（事務局説明）

○ 意見シートについて

先ほどの視察と今後の議題に関する感想や提案があれば、配布された意見シートにご記入願う。このシートは任意のアンケート形式だが、いただいた意見は今後の素案作りに参考にさせていただくとともに、議事要旨にも記載させていただく。

○ 環境文化部長あいさつ

先ほどの視察の中で教育推進課の担当者からも話があった通り、各学校には1,2人の支援が必要な外国籍の子どもがいる。この子どもたちは学校生活についていけないという悩みを抱えている。大人に対しても支援をする必要があるが、現在はスマホに翻訳アプリがあるため、文章を読むことはできるが、内容を理解するのが難しい場合が多々ある。そのような場合、個別に相談を受けることがあるが、電話での相談はハードルが高い。岐阜県では外国人の流入が全国的にもトップ5に入る規模になっており、特に可児市や美濃加茂市では多くの外国籍の住民がいる。そして多治見市でも中国やベトナムなどの国籍を持つ大人が増えている。この多様な文化に対応するためにも、市として考えていかなければいけない状況になってきている。本日は子どもの権利に関する会議となるので、子どもに関する視点で皆様のご意見をお寄せいただくようお願いしたい。

○ 会長あいさつ

視察を通して視野が広がったと思うので、議論も活発になるかと思う。本日も建設的なご意見をよろしくお願いします。

【議題】

1. 子どもの権利委員会視察先について

事務局（説明…資料1）

会長 事務局の説明について、ご質問があればお願いしたい。

会長 当日さわらび学級にて、気になったことがあれば職員に折を見て質問すればいいと思うが、子どもには話しかけない方がいいか？

委員 自分の学校の子どもが利用しているため、時折さわらび学級を訪れるが、他の学校の子どもたちに声をかけることは基本的に避けている。

事務局 担当課に確認する。

2. 第4次子どもの権利に関する推進計画体系図（案）について

事務局（説明…資料2-①、2-②）

会長 事務局の説明の中で、『ウェルビーイング』という言葉が自己肯定感の向上などすべての言葉を含んでいるという話があったがこの言葉を基本目標として掲げていいかどうか。加えて「子どもが心身ともに健やかな状態であること」を本委員会におけるウェルビーイングの定義としていいかどうか、みなさんの意見をお伺いしたい。

委員 とても良いと思う。今まで自己肯定感の向上だけを目指すべきかと疑問に思っていた。『ウェルビーイング』という言葉は今、多くの場所で使われており、福祉の分野でも重要視されている。様々な意味を含んだ包括的な言葉なので、自分は賛成である。

会 長 教育や福祉、経済など、さまざまな分野で『ウェルビーイング』という言葉が使われるようになってきている。これは流行の言葉を使用しているということではなく、子どもの権利委員会が市民にわかりやすく表現するための言葉として定義している。

会 長 続いて、基本目標Ⅰ,Ⅱ,Ⅲから様々な推進施策が広がってくると思うが、これらの基本目標の文言のうち特にⅢについて事務局側が確認したいということだが、これはどういった意味か。

事 務 局 資料2-②の基本目標Ⅲの文章中に「人権意識を育む機会を設けることで、子ども自身がありのままの自分を受け入れ、強みや可能性を自律的に叶えられる環境づくりをします」という文章を追加している。子どもの自己実現を支援する意味合いになるが、さらに追加で表記が必要か、削除した方が良いというご意見があればお聞きしたい。

会 長 3つの基本目標の文言について、段階的に意識を高めるような表現になっていると個人的には思う。基本目標Ⅰは空間や居場所を保障し、Ⅱは参画の場を確保し、Ⅲは自立意識を育むことを目指している。これらの基本目標があり、それに繋がる16の推進施策があると考えている。

委 員 個人的な印象の話ではあるが、事務局から追加したと説明のあった文章の「ありのままの自分を受け入れ」の部分が少し気になる。なぜかという、障がい等ハンデのある方が自分の状態をありのままに受け入れるというようなニュアンスを想起される人がいるのではないかと感じたからだ。そうではなく、もっと広い意味で子どもたち全員が、というニュアンスだと思うため「ありのままを受け入れ」と強調する必要はないと思った。「子ども自身が自らの強みや可能性を自律的に叶えられる環境づくりをします」という流れで意図は通じるのではないか。

事 務 局 「ありのままの自分を受け入れ」という文言に関しては、子どもの自己実現について調べた際、単に夢を実現するという意味だけでなく、自分自身を受け入れた上で未来に向けて努力することを意味すると解釈した。この部分を削除しても、自己実現について述べているという内容が伝わるのであれば、削除しても良いと思う。

会 長 委員としては「ありのままの自分を受け入れ」を削って、子どもが自分の強みや可能性を自律的に叶えるという表現でいいのではというご意見でよろしいか。ただ、自己を理解するような、見つめるような表現がないと強みや可能性という言葉につながなくなってしまうのでその部分は入れたいと思う。

委 員 「ありのままの」という言葉からは、障がい等を表現しているとは個人的に感じなかったが、自分自身の良さや弱みを含めた本来の姿、つまり自分らしさを意味しているのだろうと思った。ただ、障がい等を連想させる可能性が認められるのなら、

より他の柔らかい言葉を使用した方が良いと思う。「ありのまま」も成長とともに変化するものなので、自分らしさについて探求していくようなものでもいいのかなと思う。

委員 自分はあまり引っかけからなかったが、この委員会内でも気になるという意見が出てくると、他でも同様に受け取られるリスクがあるかもしれない。そのため、表現方法を少し変える方が良いと思う。

委員 自分の弱いところも受け入れてこそその自分らしさかなと受け取ったが、障がい等の部分だけではなく、様々な側面で自分自身を大切にしている表現が適切だと思う。

事務局 現状いただいたご意見をまとめると「人権意識を育む機会を設けることで、子ども自身が自分らしさを受け入れ、強みや可能性を自律的に叶えられる環境づくりをします」ということになるがどうか。

委員 「自分自身を知り、強みや可能性を～」につなげてみてはどうか。

会長 新しいご意見をいただいたが、皆さまどうか。

委員 「自分自身を見つめ」はいかがか。

会長 「自分自身を理解し」「自分自身を見つめ」のどちらかで言ったら後者の方がいいかと思う。少し考えて、自分の強みや可能性について考えられるのではないかな。事務局としてはどう感じたか。

事務局 「自身を見つめ」が良いように思う。

会長 （委員に対して）その他気になる点はないか。

「強みや可能性」という言葉は、低学年では「良さや可能性」と言われるが、今回の文脈では「自律」として自分を律することを強調しており、これが「強み」という言葉に関連している。現在では「自律学習」という言葉もあるため、違和感はない。

会長 他にも推進施策の内容等気になるところはないか。

ー追加意見等なしー

事務局 再確認になってしまうが「子どもが心身ともに健やかな状態であること」を多治見市子どもの権利委員会としての『ウェルビーイング』の定義としてよろしいか。

ー反対意見等なしー

3. その他

①令和6年度第3回委員会について

第3回 令和6年9月5日（木）10:00～12:00

さわらび学級へ視察

②【依頼】みんな違っておもしろい ぼくの絵わたしの絵 絵画コンクール 2024

審査日：令和6年9月11日（水）～9月12日（木）

③その他

◎「みんな違っておもしろい ぼくの絵わたしの絵 絵画コンクール」チラシ、令和6年人権同和教育講演会チラシの説明

◎意見シートについて補足説明

ーその他情報共有等ー

子ども支援課 次回の子育ち支援会議は8月26日に予定されている。実施したニーズ調査の結果がまとまり、以前の貧困調査と合わせて子ども未来プランの体系図を作成し、委員に提案し意見聴取する予定である。8月の広報で特集記事を組むが、調査結果は5年前とあまり変化がなく、時代の変化で多少要望、要求が強くなってきているという傾向はあったが、大きな変化は見られなかった。市長交代に伴い市の施策も子ども施策に注力する方針となっているため、具体的なことはまだ決まっていないが、そういった部分も加味しながら体系図を作っていくという段階である。

会 長 いろいろなご意見をいただきありがとうございました。

（閉会）

ー意見シートによる追加意見（議題2について）ー

会 長 体系図の15ある推進施策の中で、特に(1)や(7)の文字量が多いことが少し気になる。できれば簡潔な言葉にしたい。

委 員 すっきりと整理され、わかりやすい体系図になったと思う。基本目標Ⅱの子ども「主体的な」という文言がとても良いと思う。

委 員 「ありのままの自分」という言葉に違和感はなかった。個人的には「自分自身を知る」「自分自身を見つめる」のどちらがいいと言われると、前者の方がいいと思う。あまり差はないが、「自分自身を見つめる」という言葉だと反省的な意味が含まれているように感じる。

委 員 『ウェルビーイング』という言葉の起用に賛成である。補足的なサブタイトルがあるといいかもしれないと感じた。